

フィンランド通信 (1) : フィンランドの生活

横田絵理 (よこた えり)
慶應義塾大学

1. はじめに

2013年の春からフィンランドの首都ヘルシンキにあるAalto大学に滞在しております。到着してから4月末までは至る所が真っ白な風景でしたが、5月1日のメーデーを前に突然地面が見え始め、春の訪れを実感しました。本来であれば4月の初めにはこのような風景に変わるはずですが、今年は春が遅かったそうです。

みなさまにとってフィンランドがより身近な国の一つとなることを願いつつ、フィンランド通信をお届けします。今回は、フィンランドのご紹介と人々の生活についてです。

2. フィンランド?

2013年7月に日本航空の直行便がヘルシンキ空港に就航したことに伴い、就航と広告の成果か、この夏には多くの日本人観光客が例年に増してフィンランドを訪れたようです。

フィンランド航空の宣伝文句ではフィンランドは「日本に一番近いヨーロッパ」で、ヨーロッパ各地へのハブとしての機能もあります。とはいえ、ときおり、北欧4カ国の中でどこに位置しているのか不明だといわれることもあり、特徴も北欧はすべて同じと思われるがちです。そこでまずフィンランドをご紹介しますことから始めます。

フィンランドはスカンジナビア半島の中の最も東側、ロシアの隣に位置しています。人口は541万人ほど、首都ヘルシンキでは60万人、ヘルシンキ周辺の地域を入れますと100万人です。国民の90%の人がフィンランド語を使うほか、5.4%の人が使うスウェーデン語も公用語となっています。そして多くの人が英語を話します。

1917年12月6日に独立し、現在はフィンランド共

和国ですが、それまでロシア帝国の一部だった時代が100年余り、スウェーデンの一部であった時代が600年ありました。EUのメンバーになったのは1995年、北欧4カ国で唯一ユーロが使える国です [1]。

2013年の今年、NOKIAの携帯部門がマイクロソフトに買収され、ソフトバンクがフィンランドのゲーム企業であるスーパーセルを買収するというニュースでフィンランドの国名を日本でもよく目にしたと思いますが、昔から知られているところでは、ムーミンの国であり、サンタクロースの国であり、そしてサウナの発祥の地でもあります。フィンランドのビジネス紙Talouselämäの発表によると、2012年のフィンランド企業の中で、売上高はNOKIAが30億ユーロとダントツで、社員数も10万人以上と群を抜いています。しかし現状は、対前年比売上が22%減で2004年の規模にまで縮小し、先のマイクロソフトへの事業切り売りでもわかるように厳しい状況のようです [2]。日本で人気のブランドのマルメッコもフィンランド企業です。

フィンランドの2012年の一人当たりの名目GDP (USドル) は、約45,634USドル、日本が約46,101USドルです [3]。主要産業は金属機械、電子電気機器製造、紙パルプなど木材関係となっています [4]。

3. フィンランドの「世界一」

森と湖の国と呼ばれるフィンランドには、世界一といわれる点がいくつかあります。

その一つはニューズウィーク誌が100の国をランキングした“World's Best Country”の2010年の第1位です。これは生活状況を比較したもので、教育、ヘルスケア、生活の質、経済の動き、そして政治的状況の観点からの順位付けがなされ、フィンランドは最も生活しやすい国となったということ

です。スイス、スウェーデンがフィンランドに続き、日本は9位でした [5]。また母の日にちなみ、NGOのSave the childrenが発表した2013年の母親をサポートする国1位にもフィンランドは上がっています [6]。教育関係でよく聞くPISA (Programme for International Student Assessment, OECD生徒の学習到達度調査) では、57カ国と地域が参加した2006年調査における分野別平均得点の国際比較で、フィンランドは科学的リテラシーで1位、読解力、数学的リテラシーで2位となっていました。ちなみに65カ国・地域が参加した2009年の調査結果では、総合読解力は3位、数学的リテラシーは6位、科学的リテラシーは2位でした [7]。

4. 仕事と生活

冬の生活の厳しさにもかかわらず、住みやすい国1位になったことがあるフィンランドにきて最も驚いたことは、大学人や企業人間問わずの生活のリズムのメリハリです。ある授業での若い政府官僚の講演のなかで、「自分の時間は3つに区切られる。3分の1は睡眠、3分の1は仕事、そして3分の1は家族との時間だ」と言いきっていました。確かに、午後4時から5時ごろになりますと大学も企業も人がいなくなります。また、フィンランドの人々は6月後半の夏至の日から7月いっぱい、しっかり夏休みを取ります。ヘルシンキの人たちは地方に持っているサマーコテージで快適な夏を家族とともに過ごすそうで、夏の間ヘルシンキにいる人は海外の人ばかりです。夏に企業調査を企画していた私は6月の夏至以降ヘルシンキの企業から人がいなくなると言われて大変慌てました。

フィンランドの人々は1日8時間勤務、夏休みもたっぷりとり、残業、休日出勤は基本的にしません。しかし、残業が多く休日も返上して働いている日本人と比べて、一人あたりのGDPも変わらず、生活水準も高いことを考えますと、集中力の高さと生活についての考え方の違いをひしひしと感じます。

確かに私の周りの人々の仕事時間中の集中力は高いです。時間の中でいかに終わることができるかを大切にし、会議の時間も守ります。忙しい中でのコミュニケーションのポイントは、例えばe-mailでも電話でも冗長な言葉はなく、要点をつかんだ内容で、

しかも1回目からファーストネームで呼び合います。意思決定も大変速く、決めたらすぐ実行という特徴があります。直接的なコミュニケーションが大きな特徴であり、仕事の速さの秘訣かもしれません。

5. おわりに

フィンランドは、生活水準も高く、社会インフラも整った大変暮らしやすい国です。私のように短期間の滞在者にも極めてオープンマインドで安全な、過ごしやすい国ですので、今後日本との交流も増えるのではないかと楽しみです。

フィンランドは、先のランキングの中でも触れたように、特に教育という点での注目が集まる国です。そこで今回はその点について触れてみたいと思います。

参考文献

- [1] <http://finland.fi/Public/default.aspx?contentid=160032&nodeid=41803&culture=en> (Oct. 29, 2013)
- [2] http://yle.fi/uutiset/talouselama_500_selvitys_paljastaa_suurten_suomalaisyrittysten_kannattavuus_heikkenee/6666308 (Oct. 29, 2013)
- [3] <http://www.imf.org/external/pubs/ft/weo/2013/02/weodata/index.aspx> (Oct. 29, 2013)
- [4] <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/finland/data.html#4> (Oct. 29, 2013)
- [5] http://yle.fi/uutiset/newsweek_finland_worlds_best_country/5627552 (Oct. 29, 2013)
- [6] http://www.savethechildren.org/site/c.8rKLIXM-GIpI4E/b.8682793/k.EAB5/State_of_the_Worlds_Mothers_2013_Infographic.htm (Oct. 29, 2013)
- [7] http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/___icsFiles/afieldfile/2010/12/07/1284443_01.pdf (Oct. 29, 2013)

略歴

横田 絵理 (よこた えり)

1983年学習院大学経済学部卒業、1995年慶應義塾大学経営管理研究科博士課程単位取得退学。1997年博士(経営学、慶應義塾大学)。1995年から武蔵大学勤務、2005年から現職。